

「かわせみ会」便り

令和5年 3月号
俳句を楽しむ会



元朝や

まづは仏のお灯明

新年、初句会で久々の最優秀句が詠まれる！

詠み人の気持ちを聞いてみると → 新年元旦の朝、一番に仏壇に線香と灯明を灯した後、合掌し今年も見守っていて下さいと、

「新年の新たなる一年のスタートを詠んでみました」と言っていました。

この句は、かわせみ会出席者の半数の方々が、選句され秀句として賞賛されました。

秀句と言えども、日常普通に生活している中から、ちょっとしたことから俳句は出来るのです。

皆さんも詠んでみませんか！

令和4年 11月度の詠句

- ・ 干し竿の部屋へ伸びたる秋の影
- ・ 冬隣り書き込みあまたカレンダ
- ・ スーパーの見切り場密や冬日暮れ
- ・ テーブルの湯飲みの影に秋深む
- ・ 晴着着て祖母に引かれる七五三

令和4年 12月度の詠句

- ・ 発表会花束抱え爺サンタ
- ・ 年かさね喪中はがきの増える冬
- ・ ボールイン大歓声の冬日本
- ・ 川涸るる中洲の草のなびきぐせ
- ・ 病む妻の先を思わばなまり空
- ・ 師走迄元気で来たと妻とハグ
- ・ 寂しさが漂う田舎の残り柿



令和4年11月から
令和5年1月の詠句
中から、3人以上の
メンバーから選句さ
れたものです

秀句として
一押し句

- ・ 待春やせめぎ合ひたる絵馬の数
- ・ 初詣二拍の御加護妻にあれ
- ・ 元朝やまづは仏のお灯明
- ・ 朝日射し枯れ木の木枝雪の華
- ・ 逆で勝ちワールドカップ冬に華
- ・ 朝霧に浮くや国見の山の峰
- ・ 秋清がし大社巫女舞古を偲ぶ
- ・ 暦見てもう晩秋と病める妻
- ・ 箒目の渦へひとひら落ち葉かな
- ・ 母の歳超えて冬至の長湯かな

写真を見て一句！



チャレンジ！

OB会員の皆さん！
俳句を詠んで投句

担当幹事

連絡先は「ゆうゆう会報」

鳥越 園田

H4年9月号に掲載

由比浜 金子